

(令和5年(2023年)7月7日)

令和5年度(2023年度)エゾシカ対策有識者会議(生息状況評価部会)
議事録(概要版)

日 時 令和5年(2023年)6月9日(金)14時00分~17時00分

開催場所 かでる2・7 1050 会議室

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

議 題 (1) エゾシカの生息状況及び捕獲状況等について
(2) 令和4年度(2022年度)エゾシカ個体数指数の推定について
(3) エゾシカ捕獲推進プランについて
(4) 資源管理モデル地域の取組について
(5) その他

議 事

(1) エゾシカの生息状況及び捕獲状況等について

ア 事務局(仲澤係長)から資料1に基づき、エゾシカ捕獲数の推移について説明。

イ 事務局(松橋主事)から資料2に基づき、令和4年(2022年)エゾシカが関係する交通事故発生状況について説明。

ウ 道総研(稲富主査)から資料3に基づき、令和4年度(2022年度)列車運行支障発生件数によるエゾシカ生息動向の評価について説明。

エ 道総研(亀井研究主任)から資料4に基づき、令和3年度(2021年度)エゾシカ捕獲努力量当たりの捕獲数及び目撃数について説明。

オ 質疑応答等(・ 無)

(梶構成員)

- ・エゾシカを管理するという危機感を国有林、道有林の担当者とも共有すべき。
- ・狩猟と許可捕獲のCPUE、SPUEについて、これまで生息数の指標としてきた狩猟の方は、許可捕獲と比較してサンプル数が圧倒的に少ない一方、期間が限定されているという特徴があるが、全体の生息数の動向を反映しているのか。ライトセンサスなどの他の指標との関係性についてどう評価しているか。

(宇野構成員)

- ・列車支障件数について、オホーツクや上川管内での急激な増加の理由は何か。
- ・許可捕獲CPUE・SPUEのデータをライトセンサスと同時期の10・11月の期間だけで分析するとどうなるのか。

(2) 令和4年度(2022年度)エゾシカ個体数指数の推定について

ア 道総研(山口研究員)から資料5に基づき、令和4年度(2022年度)エゾシカライトセンサス調査結果について説明。

イ 道総研(稲富主査)から資料6に基づき、ベイズ方によって算出した令和4年度(2022年度)のエゾシカ個体数指数等について説明。また、上野構成員、山村構成員から個体数についての補足説明。

ウ 資料7について、地域区分(東部・北部・中部・南部)ごとに令和4年度(2022年度)の個体数指数等について意見交換を行い、内容を修正。

エ 質疑応答等(・ 無)

(宇野構成員)胆振地域のライトセンサス結果について、平均観察頭数は一時的に減らすことができたと考えて良いのか。

以上のほか、令和4年度(2022年度)の東部地域の個体数指数については、下限値においてもピーク時の平成23年度(2011年度)を上回っていることから、過去最高となった可能性が高いという認識を持つべきという意見で一致。

(3) エゾシカ捕獲推進プランについて

ア 事務局（仲澤係長）から資料8に基づき、令和5年度（2023年度）エゾシカ捕獲推進プランの考え方等について説明。

イ 質疑応答等（ ・ 無 ）

（梶構成員）メスジカは冬が進むにつれて山から下りて来るようになるため、その時期の捕獲活動に取り組む価値はある。

（宇野構成員）2、3月にメス比率を高めるための許可捕獲を実施するのが良いが、元々狩猟による巻き狩りで捕獲していたものが許可捕獲に置き換わっている状況であるため、基本的に捕獲数は増えない

（上野構成員）2、3月が狙い目であることは道総研の分析でも結果が出ている。除雪の実施などの捕獲環境整備というところで改善の余地はある。

以上のほか、資料8の記載内容についての意見交換を行い、内容を修正。

(4) 資源管理モデル地域の取組について

ア 道総研（稲富主査）から資料9に基づき令和4年度（2022年度）資源管理モデル地域におけるエゾシカ関連データの解析について説明。

イ 質疑応答等（ ・ 無 ）

（宇野構成員）広域管理が難しくなっている中で、市町村スケールでの成功事例を作っていくことは重要。今後は被害の増減傾向にかかる調査も実施し、生息数だけでなく被害も軽減できているという評価を可能にすることが重要。

（梶構成員）被害対策としては、柵を設置する、加害獣を捕獲する、個体数を減らすという順番があり、これを実施すれば確実に被害は減少する。モデル地区ではそうした原則的な取り組みを実施してもらいたい。

（事務局 坂村補佐）被害額の増減には、作付面積の変化も関係している。また、エゾシカは季節移動するため、捕獲の効果が被害面とどう結びつくのかがわからない問題もあるため、その点も考慮いただきたい。

（上野構成員）2、3月のメスジカの捕獲比率を上げるため、他の時期の捕獲予算を減らして冬場の捕獲予算を増やす場合、予定どおり捕獲ができず予算を消化しきれない可能性があるため、実行するのは難しいと判断されるのではないかと。

(5) その他

ア 質疑応答等（ ・ 無 ）

（宇野構成員）かつては、西部地域や本州からの狩猟者が東部地域で狩猟をしていたが、現在はそれが減っているのではないかと。狩猟者の動向についても分析を試みてほしい。

- 資料7及び8について、事務局において内容を調整の上、改めて部会で検討いただくこととし、令和5年7月18日（火）に開催予定の有識者会議では事務局から口頭により本日の部会の経過報告することを提案し、構成員の了承を得て閉会

以上

令和5年度（2023年度）エゾシカ対策有識者会議（生息状況評価部会）
出席者名簿

日時：令和5年6月9日(金)14:00～

会場：かでの2.7 1050 会議室

1 構成員

道総研エネルギー・環境・地質研究所	主 査	上野真由美
東京農工大学大学院 農学研究院	特 任 教 授	宇野 裕之
兵庫県森林動物研究センター	所 長	梶 光一
横浜国立大学大学院 学術高等研究院	上席特別教授	松田 裕之
農研機構 農業環境研究部門	再 雇 用 職 員	山村 光司

2 エゾシカ対策有識者会議座長

酪農学園大学 農食環境学群	准教授	伊吾田宏正
---------------	-----	-------

3 関係機関

道総研エネルギー・環境・地質研究所	研究主幹	長 雄一 ※
	主 査	稲富 佳洋
	研究主任	亀井 利活
	研究職員	伊藤 健彦
	研究職員	山口 沙耶

※ 長研究主幹は Web 参加

4 関係所属

農政部生産振興局技術普及課	農業環境係長	山脇 豪
	主 任	岡内 丈
水産林務部林務局森林整備課	保護種苗係長	井村 浩昌
水産林務部森林環境局道有林課	道有林整備係長	山越 元

5 各（総合）振興局保健環境部環境生活課 ※Web 参加

空知総合振興局	係 長	浅野 亮太
石狩振興局	自然環境係長	筒淵 美幸
	主 任	中田 孝之
	主 事	小原 史也
胆振総合振興局	自然環境係長	荒井 一実
日高振興局	自然環境係長	栗林 稔
	主 任	大谷 緋衣
	主 事	伊吹 妃愛
渡島総合振興局	技 師	櫻庭 碧
檜山振興局	係 長	安井 崇紘
留萌振興局	係 長	汐崎 正輝
宗谷総合振興局	自然環境係長	黒田 芳人
	主 事	高野 琴羽
オホーツク総合振興局	主 事	笹川絵莉子
十勝総合振興局	自然環境係長	小川 明子
	技 師	榎本 花
釧路総合振興局	自然環境係長	川島 新
	技 師	竹田 理紗
根室振興局	自然環境係長	河崎 淳
	主 事	田中 隼太

6 事務局

環境生活部自然環境局野生動物対策課	エゾシカ担当課長	高杉 聖
	課長補佐（エゾシカ対策）	坂村 武
	主幹（エゾシカ活用）	鎌田 英則
	エゾシカ対策係長	仲澤 健
	主査（エゾシカ）	羽二生浩孝
	主査（エゾシカ活用）	大和田 望
	主 事	松橋 廉